

提出日： 2025 年 5 月 20 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
戦略経営研究科	教授	犬飼知徳

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。	
	1. 2023年4月 1日 ～ 2024年3月31日	4
	2. 2023年9月 1日 ～ 2024年8月31日	
	3. 2023年4月 1日 ～ 2023年9月20日	
	4. 2023年9月21日 ～ 2024年3月31日	
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。	
	本研究では、以下の二つのテーマを柱に調査・分析・共同研究を推進した。 (1) 日本人起業家エコシステムに関する実証研究 サンフランシスコ・ベイエリアを対象とし、日本人起業家のコミュニティがどのように形成されているか、その形成プロセスとエスニック・サブシステムの役割について質的調査を実施した。現地で活動する起業家へのインタビュー、ブログ・講演記録のテキスト分析、JETRO・NEDO 等支援機関や VC 関係者との対話を通じて、若手起業家が「起業家であり続けること」を支えるサブシステムの重要性を仮説として構築した。特に、Web3、AI、Spatial Computing といった先端分野において、数十名の若手起業家が互助的なネットワークを通じてベイエリアに定着しつつある実態を把握した。	
	(2) 環境正義の実現とイノベーション促進を両立するクロスセクター協働メカニズムの研究 本研究の中心課題は、「なぜサンフランシスコ・ベイエリアでは環境正義の実現とイノベーションの促進が両立するのか」という学術的問いに対して、多角的・実証的にアプローチすることである。行政学、社会学、法学、政治学、経営学の専門家が協働し、企業、NPO、自治体、大学などのセクターを超えた人材交流と協働の実態を調査した。	
	現地調査では、NPO、自治体の環境政策担当者、企業のサステナビリティ責任者などを対象にインタビューを実施し、制度的・人的ネットワークの交錯が環境正義の推進力となっている実態を明らかにした。また、環境正義の課題が人種・貧困・移民・教育など多領域にまたがることから、セクター横断的なアプローチが不可欠であることが示唆された。	
	得られた	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。

研究成果について	主な研究成果は以下の通りである。 • ベイエリアの日本人起業家エコシステムに関する研究成果は、現在英文学術誌への投稿準備中であり、パイロットスタディをもとにした質的仮説の理論化が進行中である。Saxenian（2006）の「頭脳環流」論に着想を得た新たな日系エスニック・エコシステムの構築に関する考察を提示している。 • 企業が環境負荷の軽減のみならず、地域の社会的弱者に配慮したイノベーションを通じて「正義」を実現するプロセスが CSV（Creating Shared Value）と倫理的行動の融合として機能するという仮説を設定した。 • 行政、企業、NPO、大学などにまたがる人材流動と協働ネットワークが、環境正義の政策形成と事業化を支える基盤であるという仮説について調査を進めている。この目的のために、キャリアネットワークの可視化ツールの導入についても検討を進めている。 • 関連する副次的成果として、企業アルムナイの実証研究も始動し、Sony や Google のアルムナイ組織における「退職後価値（Post-Separation Value）」の視点から、企業の長期的関係資本構築の可能性を探っている。
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。 今後の計画については以下の通りである。 • ベイエリア起業家エコシステムの研究は、「創造性」「継続性」「サブシステム支援」に着目した理論モデルを完成させ、2024 年度中の国際学会報告と査読付き英文誌への投稿を目指す。 • 社会正義研究については、2024 年度から獲得した科研費を活用し、企業の CSV 的取り組みと NPO・政府の社会的規範形成との関連性を多事例比較的に検証していく。 • 企業アルムナイ研究については、中央大学企業研究所を基盤に、2024 年秋に研究ノート発表した。Post-Separation Value の理論的枠組みに基づいた日本企業の組織設計と戦略的人的資源管理への示唆を導出する予定である。